

HEIWA GAKUEN

No. 74

2022年2月発行



平和学園広報

認定こども園 平和学園幼稚園

平和学園小学校

アレセア湘南中学校

アレセア湘南高等学校

学校法人平和学園

〒253-0031 神奈川県茅ヶ崎市富士見町 5-2
TEL:0467-87-0131 FAX:0467-87-2088

<http://www.aletheia.ac.jp/>

平和を実現する人々は幸いである / マタイによる福音書 5章9節



「平和」を祈り続ける 平和学園の小学校教育

平和学園小学校長 橘 明子

教育実践の
ご紹介は
3面へ

平和学園小学校が大切にしている「平和教育」。現代社会でも「平和」を掲げた教育が取り上げられているが、いつの時代も「平和」な社会を求め、懸命に考えられてきたであろう。しかし、戦争が立ち上がり、「平和」をつくるのは至難だったに違いない。本校の「平和教育」は、創立者が求め続け、後世にも託した「平和」への想い、そして、深いキリスト教信仰が土台となっている。

創立者が語る「平和」は「四つの平和」として受け継がれている。学園に集うすべての一人ひとりが、「平和をつくりだす人」として使命を抱いている。「四つの平和」とは、「一、心の平和 二、家庭の平和 三、生活の平和 四、世界の平和」である。特に、第一に掲げられている「心の平和」こそ、その基礎とならなければならないと創立者は書き残している。故に本校では、この「心の平和」を学校生活で大切にしている。とはいえ、容易に伝わるものではない。創立者は「船に碇がなければ漂流する。羅針盤がなければ目的地に行きつけない。それと同じく、われわれは心の碇と心の羅針盤がなければその行方が決まらないであろう。」と書いている。キリスト教を基にした本校の教育にはこの碇と羅針盤があるからこそ、「心の平和」を伝えられるのである。

人間が生きることの中で最も大切な人と人の繋がり。ここに「平和」の源がある。人が集まるところに愛があり、温かさが生まれる。お互いの存在を認め理解し、共に生きる喜びに満たされ生まれる小さな平和。本校では、神の普遍の愛の中で、愛と希望を持って他者と繋がること、そこに加えられる。

学校生活には、喧嘩や意見のすれ違いもある。それを解決しようとする子どもたちの間に、平和が生まれる。弱っている人に、どのように声をかけようかとじっくりと見つめる子どもの眼差しが、平和をつくる。しかし、子どもたちの心が平和に結びつくには時間がかかる。だからこそ、大人の支えが重要なのである。平和学園小学校が考える「平和教育」とは、戦争について考え伝えること、創立者が遺した「四つの平和」を平和のバトンとして繋いでいくことである。社会や環境が変化しても、子どもたちと共に「平和」を目指して生きていきたい。



神に届く祈り

「わたしの名によって願うことは何でもかなえてあげよう」

ヨハネ14章13節

宗教は祈りを大切にします。キリスト教でも祈りは中心的なものである。その祈りが叶えられるとは、どういふことか。多くの者は神による驚くべき出来事が起こること考えるかもしれない。しかし、祈りを願望の実現手段とみなすならば、実現の見込みが失すると、祈ることをやめてしまふことになる。

しかし、聖書は祈ること自体が神から与えられた恵み、人生を豊かにする秘訣であることを教えている。祈りは願望の成就のためだけでなく、神とのしほしの対話であり、神と共に生きることである。聖書の神は愛において全能であるから、たとえ眼前の状況は変わらなくも、祈ることにおいて、現実のとらえ方、対処する心構えを新たにされるのである。すなわち、主イエスの名において祈るとき、主のとりなしを通して、神の耳に届く祈りとなるのである。さらにその祈りは、神も叶えたい出来事となるのである。

神の愛と、その愛にもとづく計り知れない恵みの場と時間、それが神に祈ることである。ぜひ、神に祈ることを見直してほしい。

学園宗教主任 鳴坂明人

Heiwa Topics

認定こども園 平和学園幼稚園

Happy are those who work for peace 平和を実現する人々は幸いである

年少組

「お芋畑のげんば、その後」

年長さんが植えてくれたさつま芋の苗から長いつるがのびて、大きなはっぱがところ狭しと葉をひろげています。いよいよ収穫のとききました。土の中では育ったお芋も、今か今かと待っているようでした。

そこで、年少さんの子どものための出番です。「お芋のまわりの土をそと掘ってね」という先生の声かけで、「おいしいお芋」「おおいも」「いっぱいほろぞ」などのかわいい声が聞こえ、年少組の子どもたちも楽しそうに小さな手で一

生懸命掘っている姿がありました。

こうして年長さんが植えて育てたお芋も年少さんが掘る、そして秋祭りの日の昼食で全園児で美味しくいただきます。



年中組

「ウーバーイツ?」

年長さんから、「うんどうかいやりませんか?」とお誘いを受けて運動会に向けての準備が始まってきました。年中組の競技の中に「すていほむ」という競技があります。この競技は、1学期にみられた子どもたちの遊びです。食べ物を作っては、自分のクラスだけでなく「他のクラスにも届けよう」とデリバリーで届ける子どもの姿がみられました。子どもたちのやり取りをみても「お持ち帰りですか?」「テイクアウトもできますよ!」とステイホームの期間に、生活の中からうまれた遊びだと感じさせられました。一人ひとりリュックを背負い食

べ物をもらってバイクでお届け! なりきって楽しく参加する子どもたちの姿でした。また、看板づくりにも挑戦。気持ちを込めて一生懸命書いた看板は、当日グラウンドに飾られ、みんなにパワーをくれました!



運動会当日は急な雨で中止
写真は遠足先での競技の様子

乳児クラス(1・2歳児)

平和学園での最初のクリスマス
「イエス様おめでとう!」

クリスマスを通し、イエス様と出会った1歳児つくし組。

2度目のクリスマスでイエス様が身近になった2歳児あんず組。

それぞれ、様々な気持ちを感じていたように思います。ある日、クリップを出しお話をしていると、イエス様が誕生するシーンでどこからともなく拍手が聞こえてきました。生まれたことに嬉しさを感じ、それが拍手という形で表現されたこと。子どもたちの中に「あかちゃんが生まれたことの感動」という気持ちが感じられ

年長組

平和学園での最後のクリスマス
「クリスマスの意味を考えながら」

幼稚園のクリスマス礼拝では、年齢によって礼拝の持ち方に違いがあります。1・2歳、年少組の小さい子どもたちは親子一緒に礼拝を守り、年中長では歌とナレーターと登場する役にわかれ、メッセージを伝える生誕劇を行います。最初は自分の役割でいっぱいだった子どもたちも、練習を重ねていく中で、クリスマスの大切さや喜びを感じていました。イエスさまが私たちの為にお生まれなされた本当のクリスマスを一生懸命伝えようと、一人では上手くできない所も友だち同士で助け合い、支え合いクリスマスまでの日々を大切に過ごしました。自分のことから周りの友だちのことへ目を向け、友達に寄り添い、相手のことを思っている掛け合う。その姿に年長組の子どもたちのたく

たのかな、と私たち教師も非常に嬉しくなる場面でした。



ましさを感じました。当日の舞台では堂々と胸をはり、喜びを持ってクリスマスのメッセージを伝える子どもたちに成長を感じ、「神さまありがとう」という思いが子どもたちの内側に育まれたように感じました。



Heiwa Topics

平和学園小学校

Happy are those who work for peace 平和を実現する人々は幸いである



少人数だからこそ小学生の今だからこそ

…その子にしかできない学習の取り組み

平和×平和学習

Check! 平和学園小学校では、創立者の意思を受け継ぎ、平和学習を大切にしています。その象徴的なことを紹介します。

祈り 学校生活で子どもたちを支える祈り。毎朝の礼拝の祈り、食前の感謝の祈り、帰りの会でのその日を振り返る祈り。一日を祈りで始め、祈りで終えます。自分のために祈ってくれる人がいて、他者のために祈れるのは、素晴らしいことです。だから、子どもたちは、自分の言葉で心をこめて祈ります。こうして神さまを想い、他者を想う経験を積み重ね、子どもたちの心の土壌に平和の種が蒔かれます。本校で大切にしている平和学習は、この祈りの中で進められるのです。

平和をともし 毎年9月に行う2日間の行事です。5年生が司会進行を務め、1日目は講演会と1〜4年生の発表があります。各学年の成長に合わせ、身近な平和・多様性・世界の問題・創立者等を目向け、歌や自分たちの言葉で発表します。2日目は沖縄修学旅行に行った6年生が「平和のメッセージ」を発表します。6年生になってすぐに沖縄について深く調べ、修学旅行での見聞を加え、下級生に「平和とはどれだけ大切にするべきことか」ということを訴えます。毎年「平和のボタン」を整くべく、その学年なりの

言葉で伝えられます。

修学旅行

平和について考えるには「平和ではないこと」にも目を向ける必要があります。修学旅行では、沖縄戦の歴史や遺された方々の想いから、その厳しさ、怖さ、悲惨さを真剣に受け止め、理解します。そして、その事実を後輩に説明するための噛み砕く作業が、平和の学びを深めます。それは12歳の子どもが、急にできることではありません。5年生までに受け取り続けた「平和のボタン」の重さを理解し、「平和への祈り」を心に携えているからこそ、できることなのです。今年度はコロナ禍があり、県内中心の平和学習となりましたが、学びのベクトルは変わりません。聖書、讃美歌、祈りが、学習でも日々の生活でも平和を築く土台となっているからです。神さまの愛に包まれ、平和の子どもたちは今日も光に向かって歩みます。その一歩が平和の担い手となる道に繋がっています。



平和×卒業論文

Check! 卒業論文は大学生の専売特許…ではないのです。6年生の今だからこそ、その子にしか書けない輝きが必要です。この思いが子どもの学習の集大成となって形に残る。それが本校の卒業論文です。23年目となる卒業論文に向けて、今年の6年生も只今奮闘中です。

さて、卒業論文のコンセプトを紹介しましょう。取り組みの柱は5つです。「決める→楽しむ→深める→まとめる→分かちあう」。これが無限ループとなる学びの広がりと喜びを味わってもらいたい。この経験が大切な種となり、その先の学びを豊かなものとしてくれる。我々教員は本気でそう思っています。その柱を順に追っていきましょう。

決める 興味関心、好き嫌いを自ら精査し、1年間の取り組みに耐えられるものかを真剣に考え、担任との卒論面接を経て、ようやくテーマが決まります。

楽しむ・深める こうして自分だけの宝物となったテーマは、子ども自身が間違いない楽しく、そして深めていきます。そこには友達や先生の支えもあります。

まとめる これが個々の分岐点ともなります。卒論といえは文章でまとめるイメージですが、一人ひとりに個性があつていい。まとめ方も十人十色。論文、ショー

生活のようすを
随時発信中!



トムービー、実技披露(ピアノ・バレエ・けん玉)など、個々の表現に幅を持たせています。

分かちあう

卒論制作は、6年生から始まるのではなく、低学年時から毎年先輩の卒論発表に刺激を受け、卒論愛をあたためます。そして全ての教科の学びも卒論へと繋がります。これは少人数だからこそ行き届く学びのスタイルでしょう。6年生になり、卒論をまとめあげ、プレゼンや個別ブースでの発表を通して、学びを心から分かちあえる。ここが肝です。分かちあいが新たな楽しみを生み、その喜びが更なる深みを生み、学びの無限ループが始まるのです。

コロナ禍を生きた子どもにとって、そして新たなICTの導入によって、卒論の形は変化していくことでしょう。小学生の今だからこそできる、その子にしかできない取り組みが、卒論の中にこれから生かされるよう、我々教員も心して関わっています。ぜひ一度、「平和の卒論」を覗きにいらしてくださいね。



Heiwa Topics

アレセア湘南中学校

The truth (aletheia) shall make you free 真理はあなたたちを自由にする

ワークショップで自分の考えをまとめ、4人グループで話し合い、最後はその結果を発表して、お互いに深め合いました。中学一年生にとってワークショップは、情報機器を活用する力、互いに協調する力、自分の考えを伝える表現力などを磨く良い機会となりました。

ワークショップを通して育つ力

1年生は、4月に入学以来半年あまりが過ぎました。いい意味でも悪い意味でも、学園生活に慣れてきた時期です。ここで中高一貫教育の6年間を見すえ、これまでの生活を振り返り、今後どのような有意義に学園生活を過ごしてゆくかを考えるワークショップがもたれました。

高校3年生の自分をイメージできたかな？

中1 ワークショップ レポート

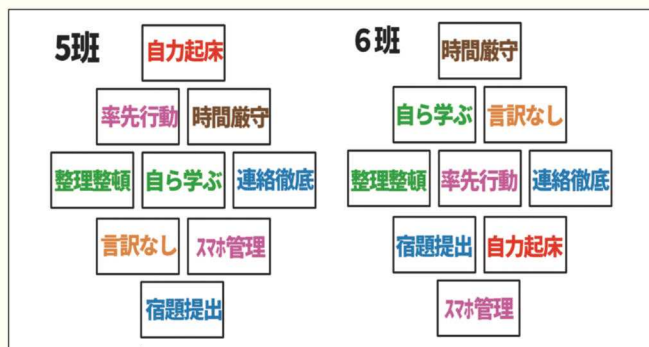
中高6年間の自分の成長を見えるために



Q 班で出た意見を、皆に分かりやすく伝えます。



Q ファシリテーターは小林直樹教頭先生
今日の目標と学習方法が提示されます。



Q 班によって、様々な考え方があり、多様な意見を学ぶことができました。



Q タブレットで自分を振り返ります。

私が、今日この授業を通して大切にしようと思った事は、「時間厳守」です。自宅学習期間で、ホームルームの時に遅刻してしまったことをまだ課題だと思っているからです。人と関わる上で約束ということは必ずあることで、一日という限られた時間の中で、約束に遅れるとその分時間を失い、他の勉強などの時間に回せなくなってしまう。

学んだ事は限られた時間を大切にすること



中1B 高木ひなのさん



Q 意見を出し合い、班で集計中。

学園生活 生の声レポート

生徒たちの声

INTERVIEW



◀Interview 特設サイトへ



「コロナにも負けず、学校生活をenjoy！」

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大のために、様々な学校行事ができませんでした。例年のように、エネルギー溢れる生徒の姿をお伝えできず残念です。けれども、アレセアでは、コロナに負けることなく、しっかりと学園生活が営まれています。その一端を、インタビューでお送りします。

平和祭を 周りと協力して 企画・準備



高2A 濱田綺音さん

昨年度、文化祭実行委員の企画・運営に携わりました。各クラスで動画を作り上映しました。私のクラスは積極的に意見を出す人が多く、なるべく皆の意見を採用できるように、ミュージックビデオを作りました。私は後ろで踊る役に徹しました。今年はコロナ感染拡大で平和祭は中止でしたが、昨年委員を経験して、自分だけでなくみんなが楽しくなるように、まわりのことを考えて行動できるようになりました。

部活動と勉強の 両立に 全力投球で



高2B 佐藤瞭充さん

硬式野球部でピッチャーをしています。ひじのケガのリスクが高いのでインナーマッスルを鍛えるトレーニングを続けています。勉強もしっかりやりたいため、部活動との両立で心がけていることは、時間を効率的に使うよう、朝、早起きして勉強に取り掛かるようにしています。小学校の頃から、何に対しても人には負けないように頑張ってきた気持ちで、その原動力なのかもしれません。

厳しい練習で 培った、 仲間との絆



高2D 尾形 雛さん

私は今、バスケットボール部に所属して、センターをしています。チームスポーツはキツイ練習を一緒に乗り越えて、試合に勝ったときが最高に嬉しいです。練習は大変ですが、部の雰囲気もよく、先輩後輩の垣根を越えて仲がいいのが特徴です。チームの中で心がけていることは、後輩がみんな人見知りです。話せずにいたため、コミュニケーションをとるよう、積極的に話しかけています。

ネイティブの 先生との 会話が楽しい



高2D 壺澤貴博さん

国際英語塾でネイティブの先生と英語で会話をします。リスニング力やスピーキング力が身につく、英語で話すことに自信が持てるようになります。最初はとても緊張しましたが、少しずつ自分の思いを自分の言葉で話すことができるようになりました。コミュニケーション能力を高め、積極的に外国の方と話したいと思っています。そして、将来は英語力を生かした仕事に就きたいと考えています。

高3生、 富士急ハイランドで 思い出づくり！



3年生にとって、アレセアでの最後の年も、新型コロナウイルスの影響により、国際交流や、文化祭など多くの学校行事が中止や小規模での開催となりました。本来ならばあるはずの秋の諸行事でも、最上級生としての様々な活躍の場が失われる結果となりました。

そこで、コロナ感染の状況が改善した11月22日(月)、山梨県にある富士急ハイランドへの日帰り旅行が、緊急企画されました。現地では絶叫系アトラクションで楽しむ人やのんびりと観覧車などを楽しむ人、自分の顔の大きさと同じぐらいのから揚げを食べる人など、それぞれが思い思い楽しむ姿が見られ、クラスの仲間や、友人との絆を深める良い機会となりました。



Information

校友会

昨年は、コロナ禍において多くの活動が中止となりました。感染症の拡大は社会を分断し、人と人との繋がりを変容させてしまいました。このような時であつても人の繋がりが絶えぬ様、これまでも増して校友会としても沢山のことを伝えてまいります。

会報誌『まつかぜ』は昨年より校友会として発刊し、本年度は、卒業生の現在の活動にスポットをあてて、紙面およびホームページにて発信してまいります。

卒業生の皆様がその繋がりを大切に、地域の中で活躍する応援をしてまいりたいと思います。

今後とも皆様の温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(会長 倉澤 条太)

平和学園
アレセア湘南
校友会&同窓会

小学校同窓会

小学校同窓会では、校友会と共に卒業生の繋がりを広める活動をしておりま

す。学校支援としては、学園行事への協力を行ってまいりましたが、コロナ禍においてこの2年間全て中止となってしまいました。

平和学園小学校での自由で自主性を尊重した教育は、私たち卒業生にとつて、その後の人格形成に大きな影響を与えたことと思います。

アレセア湘南とともに全学年が共学となり20年が過ぎ、幼小中高連携の中でどのような教育ができていくのか、平和学園の地域教育への責任はさらに増していくことと思います。

より多くの方に平和学園の良さを知って頂くために、また、生徒たちが気持ち良く校舎を利用できる環境づくりのために何ができるのか、学校とも連携して卒業生全体でサポートできる機運を高めて行きたいと思っています。

(会長 神尾 元洋)

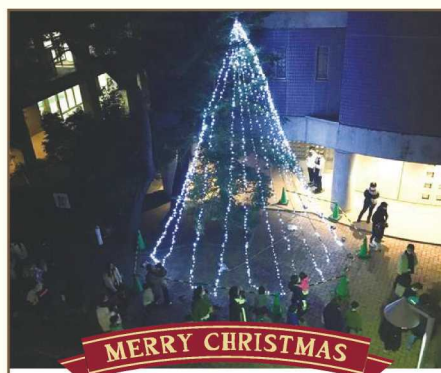
中学校同窓会

中学校同窓会は、本年度、新役員8名が就任し、運営をしております。

新型コロナウイルス蔓延に伴い、8月に初めて本会合を開くことが出来ました。

本年度の主な活動としては、11月に「同窓会奨学金」の贈呈を行いました。微力ながら、学業等に真摯に取り組む生徒さんの糧となれば幸いです。

3月には例年同様、卒業生の皆さんに証書入れの贈呈を予定しております。



クリスマス・ツリー点灯式

2021年11月19日
賀川村島記念講堂で行われた
点灯式の様子を動画で
紹介しています。



今後役員一同、同窓会の進展に貢献してまいります。宜しく願ひ致します。

(会長 逸見 由可)

アレセア湘南 後援会

2021年度の後援会活動は、6月の定期総会ならびに7月の高校野球応援の自主的活動とインターハイ出場を決めた高校女子バスケット部をはじめ、関東大会出場の高橋男子バスケット部、中学テニス部、高校アーチェリー部への活動支援が主のものとなりました。10月予定のバスツアーは、感染状況を鑑み中止と判断しました。楽しみにされた方々には、申し訳ございません。次回をお楽しみに。

今後も学園の後押しができるよう皆様方のご理解・ご協力をお願いする次第です。ご加入を随時受け付けております。(学園事務局まで)

(会長 星野 俊則)

法人だより

I 会議

・理事会	10月14日	1月13日
・評議員会	1月13日	
・常任理事会	7月8日	9月9日
	12月9日	

II 行事

・収穫感謝礼拝(各部)	
幼稚園	11月9日
中学校	11月11日
小学校	11月12日
・クリスマス・ツリー点灯式(全学部)	11月19日

・クリスマス礼拝(各部)

幼稚園	12月15日
小学校・中学校・高校	12月17日
メッセージ	
幼稚園	
鳴坂	明人(学園宗教主任)
小学校	
宮内	毅神父(カトリック小田原教会)
中学・高校2年	
児玉	慈子牧師(平塚富士見町教会)
高校1年	
中村	清牧師(横浜磯子教会)
高校3年	
山村	諭牧師(茅ヶ崎同盟教会)